

写真に基づく福井県初記録のウシマンボウ

澤井悦郎

〒 639-0200 奈良県北葛城郡上牧町 マンボウなんでも博物館

はじめに

ウシマンボウ *Mola alexandrini* (Ranzani, 1839) は、世界最重量硬骨魚としてギネス世界記録に掲載されているフグ目マンボウ科 Molidae の大型魚類である (例えば, Sawai et al., 2020). 本種は世界中の温帯・熱帯海域に分布し、同属のマンボウ *Mola mola* (Linnaeus, 1758) やカクレマンボウ *Mola tecta* Nyegaard et al., 2017 とよく混同される (Sawai et al., 2017, 2020). 本種の小型個体はマンボウやカクレマンボウの形態とよく似るが、大型個体になると頭部と下顎下が顕著に隆起すること、舵鰭 (尾鰭に見える部位) 縁辺部が半円形であること、胸鰭より後方の体表に頭尾方向の盛り上がったシワがないこと (全長 110 cm 以上) などの形態的特徴から、外観で比較的容易に同属他種と識別される (Sawai et al., 2017, 2020; 澤井, 2021a, b).

ウシマンボウは日本近海でもマンボウと混同されることが多く、本種の漁獲が稀であることがその一因となっている (例えば, 澤井ほか, 2011). これまで本種の出現が確認されている都道府県は以下のとおりである [本種の各都道府県の記録に関する文献は澤井 (2021a, b) で詳細にレビューされているためそちらを参照されたい]: 北海道 (太平洋側), 岩手県, 宮城県, 富山県, 石川県, 茨城県, 千葉県, 神奈川県, 東京都 (小笠原諸島), 静岡県, 三重県, 山口県, 徳島県, 高知県, 大分県, 長崎県 (有福島), 鹿児島県 (喜界島, 奄美大島), 沖縄県 (伊江島, 与那国島).

このたび, 2021 年 11 月に福井県初記録と考えられるウシマンボウが福井県小浜市沖で漁獲され

た (福井新聞社, 2021; 日本ニュースネットワーク, 2021). ニュースを配信した新聞社や漁業関係者に聞き取り調査を行い, 本個体に関するより詳細な情報を得たため, ここに報告する.

材料と方法

本研究で調査したウシマンボウ 1 個体 (Figs. 1-2) は, 2021 年 11 月 19 日に福井県小浜市の夫婦亀岩からやや西沖 (35°33'50.7"N, 135°41'56.7"E) に設置された定置網によって漁獲された. 本個体の体重は漁港で実際に魚体丸ごと計量され, 650 kg であった. 一方, 本個体はニュースでは全長 2 m と報道されたが (福井新聞社, 2021; 日本ニュースネットワーク, 2021), 実際には計測されておらず, 目視による推定全長であった. しかしながら, 本個体の写真 (Figs. 1-2) と先行研究 (例えば, Sawai et al., 2017; 澤井ほか, 2017) の本種の写真による形態比較, 与那国島沖で釣獲された本種が体重 370 kg で全長 198 cm であったことを考えると (下瀬・澤井, 2012), 本個体が全長 2 m 以上であるという推定は支持される. 本個体は漁獲後に食用に捌かれたが, 生殖腺は確認されておらず雌雄は不明である. 本個体の種同定は Sawai et al. (2017, 2020) および澤井 (2021a, b) にしたがって, 加藤祐二氏によって提供された写真を観察した. 本個体の漁獲日の海面水温は, 気象庁 (2021) のデータを読み取った.

結果と考察

種同定および個体観察 本個体は頭部と下顎

Sawai, E. 2021. First record of *Mola alexandrini* (Molidae) from Fukui Prefecture, Japan, based on photographs. *Nature of Kagoshima* 48: 119-122.

✉ ES: Ocean Sunfishes Information Storage Museum, Kanmaki-cho, Kitakatsuragi-gun, Nara 639-0200, Japan (e-mail: sawaetsu2000@yahoo.co.jp).

Received: 24 November 2021; published online: 25 November 2021; http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_048/048-025.pdf

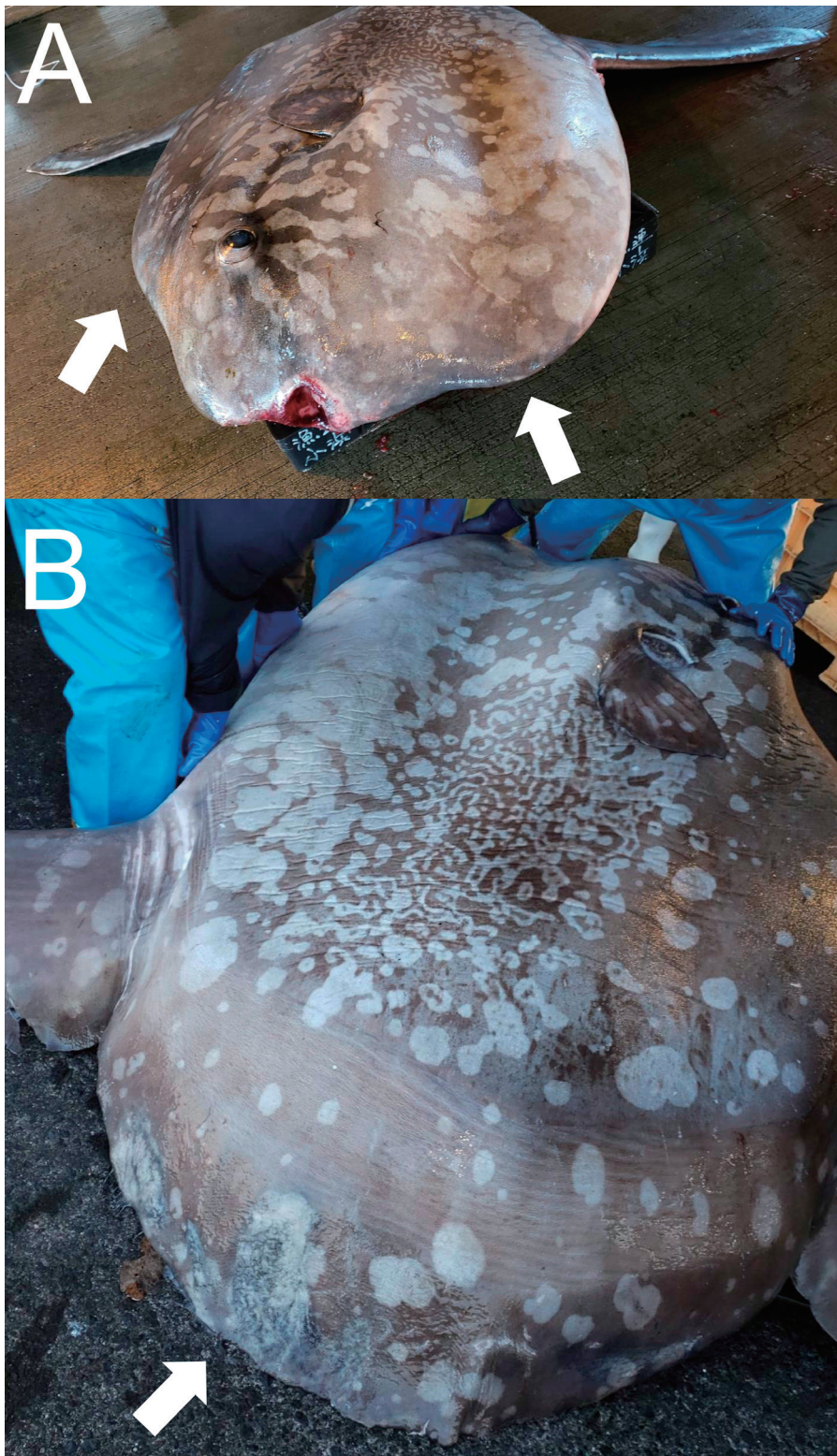


Fig. 1. An individual of *Mola alexandrini* (>2 m estimated total length) captured by a set net off Obama City, Fukui Prefecture, Japan, on 19 November 2021. A: anterior part of body. B: posterior part of body. Arrows indicate diagnostic characters for the species provided by Sawai et al. (2017, 2020). Photo by Y. Kato.



Fig. 2. *Mola alexandrini* that excretes urine (same individual as in Fig. 1). Photo by Y. Kato.

下が隆起し (Fig. 1A), 胸鰭より後方の体表に頭尾方向の盛り上がったシワがない (Fig. 1) ことから, 本研究でもウシマンボウと同定された. 本個体の舵鰭縁辺部は一部がわずかに波打っているが (Fig. 1B 矢印), このような典型的な形態ではない舵鰭をもつウシマンボウは先行研究でも報告されており (澤井・山野上, 2016; 澤井ほか, 2019), 舵鰭縁辺部全体が明瞭に波打つマンボウとは異なる (Sawai et al., 2017, 2020). また, 本個体の体表のまだら模様 (白い斑紋) は明瞭であり (Figs. 1–2), ウシマンボウのまだら模様はマンボウより明瞭であるという澤井 (2021a) の見解を支持した.

提供された写真の中には, 陸揚げされた本個体が透明な尿を排出している写真もあった (Fig. 2). おそらく陸揚げされた時に衝撃を受けて尿失禁したものと思われる. これまでにウシマンボウの尿に関する知見はなく, Fig. 2 の排出具合を見ると, ウシマンボウもマンボウと同様に多くの尿を排出するものと推察される (澤井・池田, 2021).

分布および水温 上述したように, これまで福井県内ではウシマンボウの出現記録がないため, 本個体 (Figs. 1–2) が福井県初記録のウシマンボウとなる. 澤井 (2021c) が定置網によるマンボウ科の漁獲量について全国的な聞き取り調査をした中で, 福井県は日本海側でマンボウ科の漁獲量が最も高かった県であるが, 本研究でウシマンボウの出現が確認されたことから, 漁獲頻度は低いと思われるものの, これまでの漁獲データの中にも本種が混同されていた可能性は高いと推察される.

日本海側でのウシマンボウの記録は太平洋側より少なく, これまでに富山県 1 個体, 石川県 1 個体, 山口県 1 個体の計 3 個体のみであり, 出現時期は冬季 (1–2 月) で, 出現水温範囲 (10–14°C) も低かった (石川県水産総合センター, 2012; 澤井ほか, 2017; Sawai et al., 2018). 一方, 日本海側 4 例目となる本個体は, これまでの日本海側での本種の出現時期よりも暖かく, 本個体の漁獲日の海面水温も 19–20°C であった (気象庁, 2021). 本個体の出現水温はこれまでの日本海側

での傾向とは異なり、太平洋側の出現水温範囲(16–25°C)に入る(例えば、澤井ほか, 2011; 澤井, 2021a, b). これらは日本海側もこれまで知られていた以上に広い季節や水温帯にウシマンボウが出現する可能性があることを示唆している. 本種の日本海側でのより詳細な出現状況を明らかにするためにも、継続した分布調査が求められる.

謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり、加藤祐二氏(福井県漁連小浜支所)および川上 桂氏(福井新聞社)から本研究に使用した個体の情報や写真を提供して頂いた. 以上の方々に心から厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 福井新聞社. 2021. 体重 650 キロ、巨大ウシマンボウ水揚げ 福井県の小浜漁港、刺し身はイカの食感. 福井新聞オンライン (2021 年 11 月 20 日付). <https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/1440174> (24 November 2021)
- 石川県水産総合センター. 2012. ウシマンボウ? 来遊. 石川県漁海況情報, 229: 1. (<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/suisan/center/gyokaikyou/documents/fy2011.pdf>)
- 気象庁. 2021. 日別海面水温. https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/daily/sst_HQ.html (参照: 24 Nov. 2021)
- 日本ニュースネットワーク. 2021. 漁師もびっくり! 巨大マンボウ 定置網に. 日テレ NEWS24 (2021 年 11 月 19 日付). <https://www.news24.jp/nnn/news95a9xlfrq9i-wtqj9ga.html> (24 November 2021)
- 澤井悦郎. 2021a. 写真に基づく三重県初記録のウシマンボウ, およびマンボウ属の新たな分類形質. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 8: 31–36.
- 澤井悦郎. 2021b. 写真に基づく徳島県からのヤリマンボウ, ウシマンボウ, およびマンボウ (マンボウ科) の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 1–6.
- 澤井悦郎. 2021c. 2000–2020 年の 12 県における定置網によるマンボウ科魚類の漁獲データ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 10: 49–59.
- 澤井悦郎・池田瑛真. 2021. 初めて動画撮影された飼育下のマンボウによる排尿. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 14: 1–4.
- Sawai, E., M. Nyegaard and Y. Yamanoue. 2020. Phylogeny, taxonomy and size records of ocean sunfishes, pp. 18–36. In Thys, T. M., G. C. Hays and J. D. R. Houghton (eds.) The ocean sunfishes: evolution, biology and conservation. CRC Press, Boca Raton.
- 澤井悦郎・瀬能 宏・竹嶋徹夫. 2019. 神奈川県立生命の星・地球博物館に展示されていたウシマンボウの剥製標本. 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), 48: 37–42.
- 澤井悦郎・山野上祐介. 2016. 神奈川県小田原沖にて冬期に漁獲されたウシマンボウ. 魚類学雑誌, 63: 54–56.
- 澤井悦郎・山野上祐介・木村知晴・稲村 修. 2017. 日本海から 2 例目 (富山県初記録) のウシマンボウ. 魚類学雑誌, 64: 191–193.
- Sawai, E., Y. Yamanoue, M. Nyegaard and Y. Sakai. 2017. Redescription of the bump-head sunfish *Mola alexandrini* (Ranzani 1839), senior synonym of *Mola ramsayi* (Giglioli 1883), with designation of a neotype for *Mola mola* (Linnaeus 1758) (Tetraodontiformes: Molidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-017-0603-6 (Dec. 2017), 65: 142–160 (Jan. 2018).
- Sawai, E., Y. Yamanoue, T. Sonoyama, K. Ogimoto and M. Nyegaard. 2018. A new record of the bump-head sunfish *Mola alexandrini* (Tetraodontiformes: Molidae) from Yamaguchi Prefecture, western Honshu, Japan. Biogeography, 20: 51–54.
- 澤井悦郎・山野上祐介・吉田有貴子・坂井陽一・橋本博明. 2011. 東北・三陸沿岸域におけるマンボウ属 2 種の出現状況と水温の関係. 魚類学雑誌, 58: 181–187.
- 下瀬 環・澤井悦郎. 2012. アングラ―高橋一郎 国内 6 ビルフィッシャーを目指して. BIGGAME, 29: 16–17.